

## 令和5年度 第1回 京丹波町子ども・子育て審議会 議事概要

日時：令和5年10月4日（水） 午後1時30分～午後4時15分  
場所：京丹波町役場2階 大会議室  
出席委員：16名  
欠席委員：2名

### 1 開会あいさつ

畠中町長あいさつ

### 2 委嘱状の交付

委員1名 代表受領

### 3 会長・副会長の選出

互選により、会長に明田良子委員、副会長に藤田道子委員を選出。

### 4 会長あいさつ

**会 長**：私は、京都府立学校の職員として長年、生きづらさを抱えてやってきた子どもたちが、また希望と自信をもって社会に巣立っていけるよう、生活をともにしながら、自立支援に携わってきた。

その現場を離れたと同時に、京丹波町の和知に住居を移した。その時は生きる目的がぼんやりとしていたが、京丹波町教育委員会から、学童保育の支援員を勧められた。子どものために何かしたいと思っていたので、飛びつくようにして、学童保育の支援員になった。現在1年が経ち、子どもたちから「今日も来ているのか、今日も一緒に遊んでや、次はいつ来るの」といった、温かい言葉を頂いて、自分の居場所をはっきりと確認できる生活をさせてもらっている。その子どもたちに温かくて、居心地がよくて、そして安心して暮らせるコミュニティの場を作りたいと思って、いつも子供たちと一緒に頑張っている。

さて、この審議会には、令和3年度から2年間、公募委員として参加したが、新型コロナウイルス感染症の影響で対面での会議がなかなか開催されず、自分の中では未消化で終わってしまった2年間だった。しかし、最後の会議のまとめで、事務局から「ここに集ってもらっているメンバーの方々は、京丹波町の子育て支援にかかわる宝だ」という言葉があり、もう一度審議会に参加したいと思い、今回も公募で参加させてもらっている。令和5年度、6

年度の審議会では、こうして皆さんと、顔を突き合わせながら、たくさんの意見交換が持てる場が増えそうなので、大変楽しみにしている。

また、この審議会では、第3期子ども・子育て支援事業計画の策定に向けて、審議をしていただくこととなる。副会長をお世話になる藤田副委員様をはじめ、委員の皆様がそれぞれのお立場でご活躍され、ご経験を豊富にお持ちの方ばかりなので、この審議の場が、様々な角度からのご助言をいただき、ご意見を率直に発言していただいて、より盛り上がることを期待している。そして審議を進めていく中で、この第3期計画が町民の皆さんの共感を得て、京丹波町の子育て環境をさらに充実していくことを願い、計画策定の審議にあたっていききたいと思うので、皆様のご協力をよろしくお願ひしたい。

## 5 審議事項の諮問

畠中町長より明田会長へ諮問書を交付

<諮問内容>

- 1 第3期京丹波町子ども・子育て支援事業計画の策定に関すること
- 2 京丹波町子ども・子育て支援事業計画における量の見込みと提供体制、確保方策の進捗管理に関すること

## 6 各委員の自己紹介

出席の委員より、自己紹介と各所属先での子育てにかかわる活動内容などを報告。

## 7 説明事項

- (1) 子ども・子育て審議会について（参考資料1）  
【事務局による説明】
- (2) 子ども・子育て支援事業計画について（京丹波町子ども・子育て支援事業計画概要版）  
【事務局による説明】

## 8 協議事項

### ■第3期子ども・子育て支援事業計画策定に向けたニーズ調査について

- (1) ニーズ調査の概要について…資料3-1

【事務局による説明】

【質疑応答】

**委 員**：ニーズ調査の回収率の目標は、どのくらいを目指しているのか。

⇒**事務局**：参考情報として、前回調査の回収率は、就学前で57.7%、小学生で62.9%だった。多くの回答をいただいてより良い京丹波町子ども・子育て支援事業計画にするための基礎データにしたいので、アンケー

ト調査の実施の際にはPRもしていきたい。

**委員**：今後閣議決定される予定のこども大綱の内容に応じて、ニーズ調査の内容が変わることがあるのか。

⇒**事務局**：大きな変更はないと考えているが、こども大綱の内容に沿って少し修正するなどの見直しをする可能性はある。変更の必要が出てきたら、事務局よりお示しして、委員の皆様の了解を得たい。

**委員**：生活に追われてゆとりがなく、アンケートに答える暇もない方の課題はどうやって吸い上げるのか。毎日必死に生活している家庭の抱える課題や、若い人たちが苦勞しながら頑張っている生活している実態がなかなか見えてこないのではないかと心配をしている。

⇒**事務局**：多くの方にご回答いただけるように、いろいろな機関から協力やアイデアをいただきながら、事務局としても手法を検討したい。

**委員**：WEBアンケートのみで良いのではないかと。2次元コードが書いてある紙1枚を渡すだけで済む。WEBアンケートのほうが時間の空いた時に気軽に回答できる。

⇒**事務局**：若い方はWEBの利用が多いが、小学生の保護者など、年齢の高い方もいらっしゃると思う。なるべくたくさんの方の意見を聞くためには、併用の方が良いと考える。

**委員**：外国籍の方や海外から来て間もない方々には、調査票の理解や回答、提出は難しい。翻訳アプリでそれぞれの言語に変換しやすい英語版や、外国人にもわかりやすいやさしい日本語の利用も検討してはどうか。

**委員**：外国籍の方だけでなく、日本人の方でも支援が必要な方には、回答の際に、審議会に参画されている関係機関の方が少し協力をしていただけると、回収率も上がってくると思う。

**委員**：スマホやゲーム、インターネットに触れる年齢に関する質問は、兄や姉の影響で、小さい子どもが早いうちから接するようになる傾向がある。対象の子どもが第何子かという設問も入れると良いのではないかと。

⇒**事務局**：様々なアイデアをいただいたので、検討を進めていきたい。また、調査方法については、紙とWEBを併用としたい。今は過渡期だと思っており、完全にデジタル化というのは難しいと思う。

(2) ニーズ調査票案(就学前児童用・小学生児童用) について

…資料3-2-①、資料3-2-②

【事務局による説明】

【質疑応答】

**委員**：貧困の状況を調査する設問（就学前児童用ニーズ調査票案の間23・24、小学生児童用ニーズ調査票案の間19・20）について本当に必要なのか。答えにくい設問だと思うので、選択肢に「答えたくない」を追加してはどうか。

**委員**：この設問のせいで回収率が落ちてしまわないか。ほかにもヤングケアラーの質問もあり、設問が多い。調査する範囲が広すぎるのではないか。

**委員**：答えにくい質問への対応は検討しつつも、アンケートで聞かないと、実態を把握することや状況の改善にはつながらないのではないか。

**⇒事務局**：経済的な状況と子育ては密接な関係があると言われているので、お聞きしたい。選択肢のあり方については事務局でも検討したい。  
5年に1回のニーズ調査なので、膨大になってしまうのはご理解を頂きたい。負担にならないような実施方法のありかたも検討したい。  
子どもの貧困に関しては国の方も対策を進めている課題。（5年前の）前回のニーズ調査で貧困関連の設問を設定した他の自治体では回収率は落ちなかった。

**委員**：アンケートに回答したら商品券やポイントを配布するなどして、回答する意欲が出るようにしてはどうか。

**⇒事務局**：回答することが負担だということも理解している。ニーズ調査の意義や頂いた回答をどういった取組に反映させるかなど、ニーズ調査票を送る際の依頼文の表現について考えていきたい。

**委員**：中学生は今回策定する計画の対象に入っているのか。中学生にも意見聴取を行う方が良いのではないか。ヤングケアラーや子どもの貧困といった項目は中学生も対象になることも多い。

**⇒事務局**：計画の対象は未就学児から18未満の児童なので、中学生も含まれる。  
今回は、計画策定にあたって実施するアンケートの機会を活用して、貧困やヤングケアラーについても伺うという趣旨で、保護者目線で調査したいと考えている。

9 事務連絡（次回予定）

【第2回審議会日時】令和6年1月31日（水）午後1時30分～

## 10 閉会あいさつ（藤田副会長）

**副会長：**いろいろな立場で子育てにかかわっておられる皆様から、自己紹介の名のもとに、それぞれの取り組みを詳しく、また、子育てへの思いを述べていただいた。顔合わせという面で良いきっかけになったと思う。明田会長から、フランクに、さん付けで呼んで、みんな思うことを発言してみたらという提案があったが、やはり一回目は緊張するし、変なことを言っていないかと思いつながらだったと思うが、良い顔合わせになった。いろいろな立場からご意見を伺うことができた。皆さんからいただいた疑問や意見、思いを事務局で持ち帰ってもらって、もう一度検討していただき、ニーズ調査についてもできるだけ多くの方に、100%近い形で回収ができるような内容や方法を検討いただきたい。我々もすごい量の資料をもらったので、なかなか言い切れなかったこともあると思うので、事務局の方へ気が付いたことを言ってほしい。ニーズ調査には時間があり、国の動きを見ながらということなので、事務局においても検討をお願いしたい。次回は1月になるが、その間も京丹波町の子育て施策は実施されているし、各家庭での子育てや子供たちの生活は続いている。私たちそれぞれの立場で周りの方に目を向けたり心を向けたりしながら、本当に必要な人に今されている施策が十分届くように、それぞれの立場で声をかけ、情報提供をしていく役目を果たしていきたいと思うので、よろしくをお願いしたい。